

かたつむり



No.338 2010(H22)3.21(Sun.)

藤沢市科学少年団

平成22年度 入団式

いよいよ新しい春が始まります。団員の皆さん、進級、進学おめでとうございます。きっと新しい年への夢と希望に胸をふくらませていることでしょう。

さて、少年団では3月に30人（休団者を含む）の仲間とお別れしますが、4月から新たに27人の新入団員を迎え、計114名（休団者を除く）でスタートします。

そこで次のとおり入団式を行います。新入団員をみんなで大いに歓迎しましょう。保護者の皆様もできるだけ参加していただきますようお願いいたします。

1. 日 時 4月4日(日) 9:30~12:00ころ
9:20までに受付をすませて下さい。

2. 会 場 藤沢市教育文化センター（下図参照）
お車でお越しの場合は、大清水スポーツセンター駐車場をご利用ください。

3. 持ち物 帽子・名札・バインダー・筆記用具 等

4. 欠席連絡 すべて事務局石井までお願いします。
自宅TEL（前日まで）
携帯（当日9:00以降）
平成21年度の班と氏名をお知らせ下さい。
留守番電話等になっている場合はそこに入れてください。

5. その他

当日、平成22年度の班編制を発表します。また、22年度の年間活動計画も発表します。

4月活動「雑草を食べる会」の献立をイメージしておいてください。

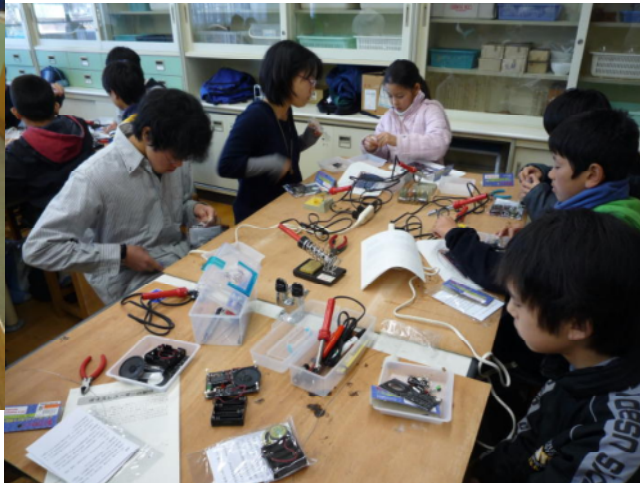
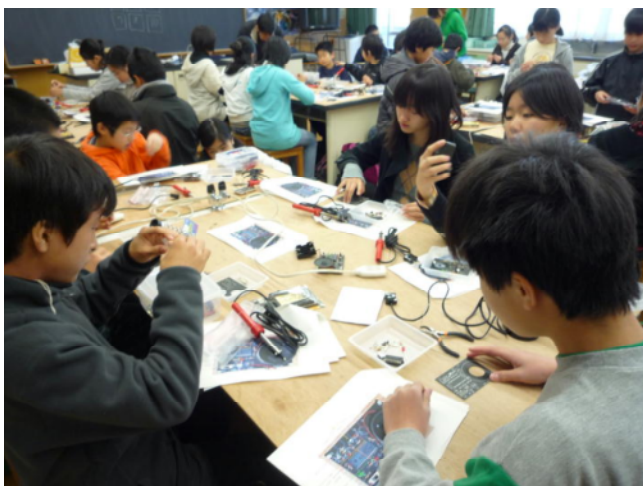
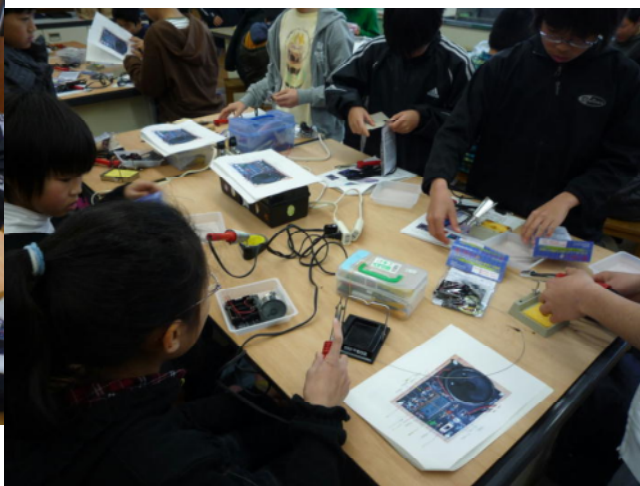
保護者の方もできるだけ参加してください。



■教育文化センター案内図

2月行事 電気工作

2月7日(日)藤ヶ岡中学校で行いました。新入団員は電気工作7つ道具の筆頭格の「はんだごて」を、継続団員は去年からの宿題の「ボイスレコーダ」でした。担当の菊池先生が舌を巻くほどの完成率で、ほとんどの人が完成させました。有効に活用していますか？



あおきおくれみの話

運営委員 鈴木照治

2月の半ばを過ぎた頃、テレビで坂本竜馬が黒船を見ようと「浦賀街道」を急ぐ場面があり、以前見たような背景が写っていたので、さっそくそこを歩いてみることにしました。京浜急行六浦駅南口から、長い石段をのぼると六浦台という住宅街に出ます。その奥、市境(昔の国境)の尾根道がその「浦賀街道」で、自然が残るハイキングコースが鷹取山まで続きます。途中、シーパラダイスやランドマークタワー、ベイブリッジが一望できます。道の両側には背丈ほどのアオキの群落が続いている場所があり、毎年2月になると、つやのある大きめの赤い実がたくさん成るのを記憶していましたから、実を写真に撮ろうと探しましたが、なかなか見つかりません。見つかるのは半分ほどの大きさで緑色の細くくびれた実ばかりです。これが昔の人のいうアオキオクレミです。「青木遅れ実」と書きます。寄生蜂の一種が、五、六月頃の若い果実寄生して育ち、冬を越して翌年の春に成虫が羽化するまで、鳥に食べられないように、実は緑色で小さく、木について落ちないまま、冬を越し、春まで生きています。もちろん、栄養のある種子の中央部は食べられていますから、羽化した後は枯れ落ちます。私の家にもアオキがあって、赤い実がたくさんありますが、緑色のアオキオクレミは、たまに見つかるだけです。ところが、この2月に浦賀街道で見たように、大群落のアオキの実のすべてが、この緑色のオクレミであったのは、初めての経験でした。赤く色づいた実を撮ろうとしていたので、少しがっかりして帰りました。今考えてみると、2月に入って赤く色づいた実を、いち早く鳥が食べつくしたあとに、私が行っただけのことだったのだとも思われます。近くにもっとおいしい実があるところなら、赤くなくても、少しの間はそのまま残るはずですが。鳥たちはよく知っていて、おいしいものから先に食べますから、冬の間、だんだん低いところまで食べていって、おいしくない実を食べるのは最後になります。2月になれば、ほかの木の実は、ほとんど食べつくされず。そこで、アオキの実が、2月になるのを待って、それまで緑色であったのが、急に赤く色づけば、鳥はさっそくその実を食べるのでしょう。アオキの果実は、大きいのですが、果肉は薄く、中身の大部分は硬い種子ですから、とてもおいしいとはいえません。それに、3月になれば栄養価の高い昆虫が、たくさん出てくるので、2月が鳥に食べてもらう最後のチャンスになるのです。

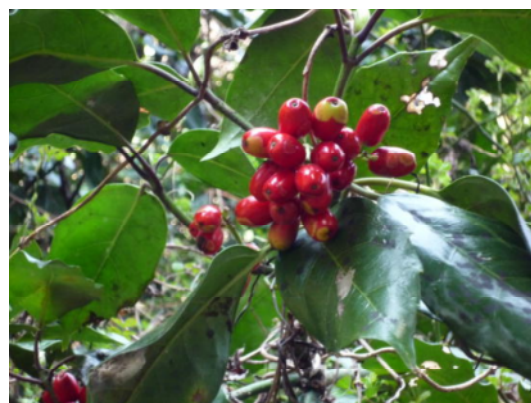
私の家のアオキの実も、2月に入ったとたん全部残らず食べられてしまいました。最近、これまで残っていた山林がなくなって住宅地が変わり、わずかに残った庭木の実を野鳥がねらって食べるためか、以前のように色づいた実が長い期間庭で楽しめなくなり、網をかけて食べられないようにしたり、早めに切り枝にして家の中に飾ったりするようになりました。



■これがアオキオクレミ



■2月下旬には遅れ実だけが残る



■アオキの赤い実(松田山奥)



■赤い実は鳥に食べられる

2月という絶妙のタイミングで、大きな実を真っ赤に色づけるアオキは、日本の常緑樹林域の生態系の持つ自然環境を巧妙に読み取った適応(遺伝子構成)を遂げているといえるでしょう。アオキは西南日本の暖帯林内の低木として広く分布します。学名Aucuba japonica Thunb. の属名アウクバはアオキの日本名そのもので、種名はもちろん「日本」です。ツバキはシボルトと同時代(18世紀初頭)、日本の植物を研究した著名な分類学者です。アオキは、これまで、ミズキ科に属していましたが、最近、分類体系が変わってアオキ科となりました。以前(カヅムリ319号、2008.10.9)、リュウゼツランが、ヒカゴバ科からリュウゼツラン科に変わったと書きましたが、江の島のサムエル・コッキング 苑では、一部の標示がさっそく変更されました。図鑑など、すぐには変えられませんが、学校や植物園では、ただちに改訂するのが、望ましいのです。科学の進歩につれて、学説は更新されますが、体系が大幅に変更されるのはめったにないことなので、新しい時代になったことを感じています。

近ごろ、あまり広くない門口を美化するガーデニングが盛んになりましたが、花が主で、実ものは古い家の千両ぐらいしかありません。毎年、実ものを成らせるには、難題が二つあります。一つは1本だけでは実が成りにくいこと、もう一つは花粉を媒介する(花から花へ花粉を運ぶ)昆虫が来てくれるかどうか分からないことです。アオキはせまくて日の当たらない庭でもよく育ちます。雌雄別株なので、実の成る木(雌木)と花が咲くだけで実の成らない木(雄木)があるので、実の成る木を一本だけ植えても実がなるとは限りません。昔(17~8世紀)、伴 弼に日本から実のなるアオキが輸入されましたが、実が付かず、後から雄木を入れてようやく実が付くようになったという話が残っています。アオキ、スギ(スギ科 ヒノキ科)、クロマツ(学名にツバキの名)という藤沢でおなじみの日本固有の植物、どれも話題にことかきません。

お知らせ

平成22年度4月活動について

詳細は、入団式の時に連絡しますが、来年度の4月活動は次の日程が確定しましたのでよろしくお願ひします。

4月活動 雑草を食べる会

日 時 4月18日(日) 9:00~14:30ころ

会 場 少年の森(保護者の方も是非ご参加ください)

そ の 他 4月18日(日)が悪天候の場合、4月25日(日)に延期し、それ以降は中止とします。あらかじめご了承ください。

帽子について

入団式の際、新入団員対象に帽子の注文を受け付けます。継続団員も注文ができますので、必要な団員は申し込んでください。

会計報告に関して

22年度会計報告(団費、賛助会費)は別紙をはさみこんでいますのでそちらをご覧ください。

緊急連絡MLの登録に関して

21年度で退団する団員の緊急連絡MLの登録は、事務局にて本日以降早急に削除いたします。また、継続団員に関しては、お申し出がない限り退団まで登録を継続しますのでよろしくお願ひします。